

平成26年2月4日

石巻市議会議長 殿

会 派 名 明心会

代表者名 高 橋 栄 一 ㊟

### 調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

#### 記

- 1 調査者氏名 高橋栄一、青山久栄、阿部政昭、首藤博敏
- 2 調査期間 平成26年1月28日（火）～30日（木）
- 3 調査地 (1) 富山市～コンパクトなまちづくりについて  
及び調査内容 (2) 福井市～観光施策の概要について
- 4 調査目的

#### (1) 富山市～コンパクトなまちづくりについて

OECD（経済協力開発機構）が取りまとめた『コンパクトシティ政策報告書』の中で富山市の取組みが世界先進 5 都市の一つに選ばれている。この先進的な取組みについて学び、今後の本市におけるコンパクトなまちづくりへの政策提言の参考とすべく視察する。

#### (2) 福井市～観光施策の概要について

福井市は、一乗谷朝倉氏遺跡がテレビ CM のロケ地に選ばれたことから一躍マスコミの脚光を浴びることとなった。この CM 効果により、福井市への観光客入込数は、平成 20 年の 44 万人から平成 23 年には 93 万人へと飛躍的に伸びている。福井市の取組みに学び、今後の本市における観光戦略への政策提言の参考とすべく視察する。

## 5 調査概要

### (1) 富山市～コンパクトなまちづくりについて

はじめに、都市整備部都市政策課金田英靖副主幹より富山市の概要について説明があった。富山市は平成 17 年 4 月 1 日に 7 市町村による新設合併により誕生したが、現在の人口は 420,496 人（富山県全体の 4 割）、面積は 1,241.85 km<sup>2</sup>（富山県全体の 3 割）で、面積では静岡市に次ぐ全国二位の広さとなっている。平成 25 年度の一般会計予算額は 1,524 億 3,642 億円となっている。なお、平成 24 年度決算における市債残高は一般会計で 2,350 億 8,368 万円、特別会計で 167 億 1,315 万円、企業会計で 1,946 億 1,082 万円の計 4,464 億 765 万円となっていた。

次に、都市整備部富山駅周辺整備課山崎哲志課長代理より新幹線開業に向けた富山駅周辺整備について説明があった。富山市は公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを進めている。公共交通の要である富山駅の周辺については、以前から整備が進められてきたが、富山駅の南側については、昭和 60 年代から南口駅前広場を整備したり、駅前市街地再開発事業等により商業施設が整備されてきた。一方、富山駅の北側については、新都市拠点整備事業や土地区画整理事業などによりコンサートホールや北陸電力本社ビル等の文化・業務関連施設が整備されてきた。しかしながら、富山駅により中心市街地が南北に分断され、機能が十分発揮されない状況となっていた。また、富山駅周辺地区では、富山駅から東西に 800m 離れた両側に南北道路が走っているが、線路の地下にあるためボトルネック渋滞が発生している。さらに、線路脇に低利用地・未利用地が存在するほか、駅前交通施設が利用しにくいという問題（路面電車の駅が JR の駅から離れており、何処にあるのかも分かりにくいなど）も抱えている。北陸新幹線建設事業（長野から富山、金沢、福井を經由して大阪に至る。富山、金沢までは平成 26 年度末までに開業予定。独立行政法人鉄道建設運輸施設整備支援機構が事業実施）に併せ、これらの諸問題を解決するため、富山駅付近連続立体交差事業（北陸新幹線を中心にしてその北側に JR 北陸本線・JR 高山本線が位置し、南側東半分は富山地方鉄道本線が位置する。JR 北陸本線・JR 高山本線

のさらに北側にある富山ライトレールと駅南側にある富山地方鉄道富山軌道線を高架下で南北接続。事業主体:富山県、事業費:345億円(JR7%、国55.8%、県市各18.6%)、事業期間:平成17~28年、効果:交通渋滞の解消、南北に分断された市街地の一体化、高架下の商業施設としての活用など)、富山駅周辺地区土地区画整理事業(北口と南口の既存広場を再整備、高架下の西口交通広場の新設のほか北西と南西にまとまった開発用地を生み出す。事業主体:富山市、事業費:140億円、事業期間:平成18~29年)、関連街路事業(鉄道の高架化に併せた道路の拡幅・整備)(事業主体:富山県、事業期間:平成23~29年)が行われている。

以上の富山駅周辺整備事業によって県都富山の新たな顔をつくり、駅を中心とする南北軸を活かした景観軸の形成、鉄軌道・バス・タクシー等がコンパクトにつながる交通結節点の整備(バス・タクシー乗降口は南口及び北口駅前広場のいずれも東側にコンパクトに配置、一般車両乗降口は高架下に新設する西口交通広場に配置)、ユニバーサルデザインによる快適な駅・駅前広場の整備(高架下に南北自由通路・東西自由通路・多目的デッキ・高架下停留所などを整備)が図られる。

続いて、都市整備部都市政策課金田英靖副主幹よりコンパクトなまちづくりについて説明があった。富山市のほとんどが平野部になっており、どこにでも住めるという地理的条件もあって、若い夫婦でも戸建て志向が強く、土地の安い郊外へと住宅が広がってきた背景がある。一方、富山市の課題として人口減少と超高齢化が挙げられ、2010年に42万2千人あった人口が2045年には32万2千人へと10万人減少すると予想され、また、2010年に25%であった65歳以上の高齢人口は2045年には40%に達する見込みである。人口減少による経済の縮小と高齢化の進展による社会保障費の増大が将来問題となると考えられている。また、郊外へ住宅が広がっていったことから過度な自動車依存と公共交通の衰退(路線バスの利用客落ち込みが激しい)という課題もある。さらに、住宅の拡散により低密度な市街地が形成されたため、中心市街地が衰退するとともにごみ収集や水道・下水道の整備・除雪等都市管理コストが上昇するという問題に加え、市民の約3割(女性や高齢

者) が車を自由に使えないため、極めて生活しづらい街となっている。

以上の問題を解決するためにコンパクトなまちづくりの基本方針がまとめられた。その内容は、まず、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市機能を集積させ、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを行おうとするものである。中心市街地活性化基本計画においては、約 436ha の中心市街地と約 3,090 ha の公共交通沿線居住推進地区を位置づけ、これらの公共交通の便利な地域の沿線人口の割合を平成 24 年の約 31% から平成 37 年には約 4 割にすることをコンパクトなまちづくりの目標としている。コンパクトなまちづくりを実現するため、①まちづくりの観点から必要なものは行政がコストを負担し、公共交通を活性化する、②公共交通沿線地区（鉄軌道の駅や停留所及び幹線バス路線のバス停からの徒歩圏内）に各種施設の立地や居住を促す、③公共交通網が集中する富山駅を含む中心市街地への各種都市機能の集中立地や居住を促す、の 3 つの施策を掲げている。①の公共交通の活性化については、LRT（ライト・レール・トランジット:軽量都市旅客鉄道）ネットワークの形成により過度に車に依存したライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちを実現しようとするもので、JR 富山港線を公設民営により路面電車化し富山ライトレールとして再出発させた。徹底したバリアフリー化、運行サービスの向上（運行間隔の短縮、深夜までの営業等）を図り、利用者数が平日で 2.1 倍、休日で 3.6 倍へと大幅に増加させることに成功した。さらに、沿線における住宅の新規着工件数の増加や沿線における観光施設入館者数の増加等の効果も見られる。また、中心市街地活性化と都心地区の回遊性の教科を目的に市内電車（LRT）の環状線化（セントラム）を図った。路面電車では日本初となる上下分離方式（軌道の整備及び車両の購入を公が行い、運行を民間（富山地方鉄道）が行う）を採用している。路面電車環状線の整備により、買物を中心とした外出機会が増大し、女性高齢者の利用も増加した。また、幹線バス路線の活性化を図るため、利用者の覆い路線を「イメージリーダー路線」として位置づけ、バス交通のイメージアップを図っている。②の公共交通沿線への居住推進については、中心市街地への居住を推進するた

め、良質な住宅の建設事業者や住宅の建設・購入、賃貸で入居する市民に対して助成を実施している。公共交通沿線居住推進地区への居住を推進するため、良質な住宅の建設事業者や住宅の建設・購入、賃貸で入居する市民に対しても助成を実施している。③の中心市街地の活性化については、財政面から見ると市税の 22.3%が中心市街地から上がってきている。したがって、中心市街地が衰退すると税収も低下するのではないかと懸念されることから中心市街地の活性化に集中投資しようとするもの。中心市街地の活性化のために賑わいの核となる全天候型のグランドプラザ（多目的広場）を整備したが、蚤の市（ココマルシェ）や市長をはじめとする幹部職員によるバンド演奏などが開催されている。そのほか、高齢者の外出機会を創出するためのおでかけ定期券事業（満 65 歳以上を対象に中心市街地から市域全域どこへ出かけても公共交通利用料金を 100 円とする割引制度）の実施、自転車市民共同利用システム（アヴィレ）（中心市街地 15 か所に設置された専用ステーションから自由に自転車を借りて任意のステーションに 24 時間・365 日いつでも返却できるコミュニティサイクルシステムで、利用料は年 500 円）の導入、魅力ある都市景観づくり（ハンギングバスケット、バナーフラッグ等の設置）、市街地再開発事業などが行われている。

以上の取組みによる効果として、中心市街地の歩行者数が平成 18 年に比べ平成 24 年では 32.3%増加しており、空き店舗数も 1.5%ながら減少している。また、中心市街地の小学校児童数が平成 19 年と比較して平成 24 年では 12.6%増加し、中心市街地への転入人口も平成 20 年より転入超過に転換している。OECD（経済協力開発機構）が取りまとめた『コンパクトシティ政策報告書』の中で富山市の取組みが世界先進 5 都市の一つに選ばれた。

富山市議会議場にて



コンパクトなまちづくりについて説明を受ける様子



## (2) 福井市～観光施策の概要について

商工労働部観光推進課久々津久和副課長から福井市の観光施策の概要について説明があった。まず、福井市の概要であるが、人口は 265,492 人、面積が 536.19 km<sup>2</sup>、東洋経済新報社の調査による住みよさランキングで毎年上位となっている。過去に一位となったこともある。観光名所では、永平寺や東尋坊などが有名で、恐竜博物館や養浩館庭園も人気がある。食材では越前ガニ、越前おろしそば、ソースカツ丼が有名。最近、一乗谷朝倉氏遺跡が吉永小百合主演のテレビ CM ロケ地として使われたことから脚光を浴びている。一乗谷朝倉氏遺跡は城下町跡が完全な形で残っていることから「日本のポンペイ」と言われている。

福井市では、観光振興のために観光アドバイザー（元全日空の宣伝部長が平成 20 年 7 月就任）を置いているが、一乗谷朝倉氏遺跡に力を入れていくことを決定し、一乗谷 DISCOVERY PROJECT を立ち上げ、デザイン力でイメージーションを掻き立て新しいタイプの日本の旅を提案することとした。クリエイティブ・ディレクターの佐々木宏氏、アート・ディレクターの副田高行氏、カメラマンの藤井保氏のチームで「京都にはない、金沢にもない、何もない」をコンセプトにした「何もないポスター」を作った。このポスターは交通広告グランプリ 2011 で最高賞を受賞した。さらに、佐々木宏氏がソフトバンクのコマーシャルを手掛けていたことから、そのご縁で一乗谷朝倉氏遺跡がテレビ CM のロケ地に選ばれ(平成 22 年ホワイト学割、平成 23 年連続 CM 小説など 11 本)、一躍マスコミの脚光を浴びることとなった。また、福井を舞台にした映画「旅の贈りもの明日へ」が撮影され（市が制作委員会に 1,500 万円を出資）、第 25 回東京国際映画祭に出品されている。

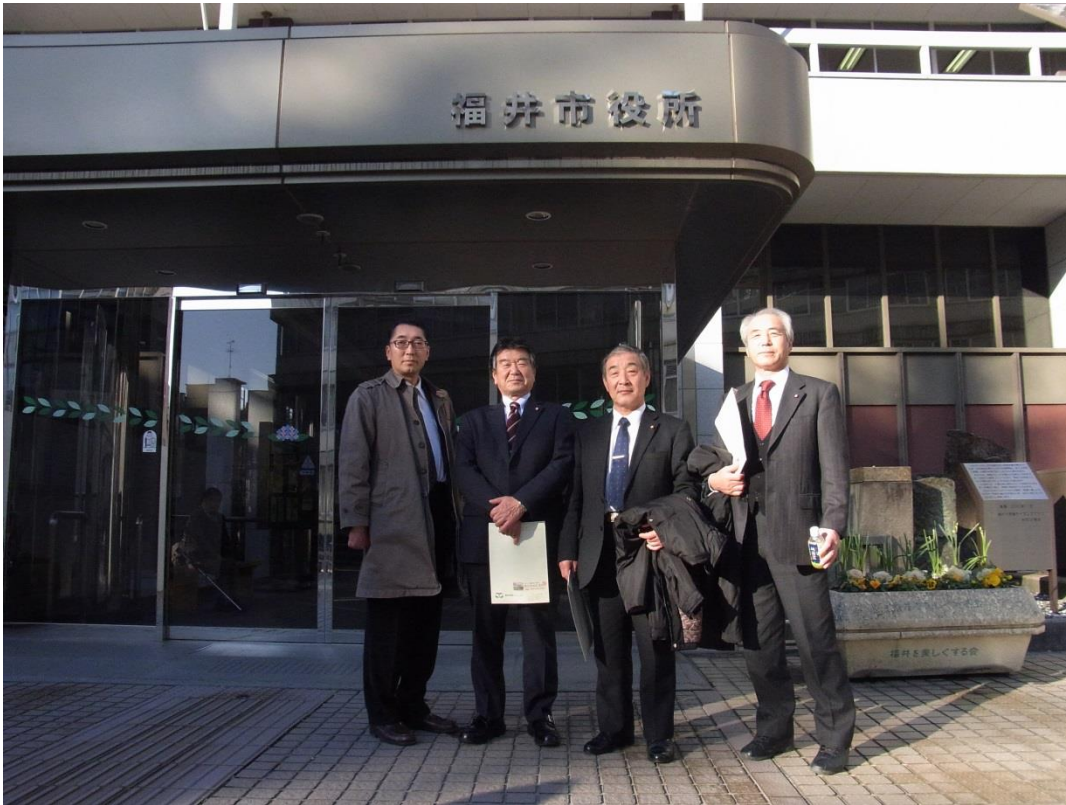
以上の観光戦略により、福井市への観光客入込数は、平成 20 年の 44 万人から平成 23 年には 93 万人へと飛躍的に伸びたが、CM 効果によるところが大きい。ただし、平成 24 年には CM 等による PR がピークを過ぎたのか 72 万人へ減少している。このことから、飽きられないよう効果的な情報発信をするとともに、これからは観光地そのものを磨いていく、ブ

ラッシュアップすることが重要であるとの観点に立ち、観光地の5大要素である「見る」「食べる」「遊ぶ」「泊まる」「買う」の機能強化が必要であるとのこと。見るだけではだめで、特に食べる、泊まる、買う機能の強化が重要であるということから、一乗谷DISCOVERY PROJECTのNEXTステージを準備しているところで、本物の遺跡をゆっくりと観光できること、マスコミに絶えず取り上げてもらえるような仕掛けを練り出すこと、おもてなしの充実と質の向上を図ることの3点に力を注いでいる。「一乗谷」の魅力発信メンバー第1号としてバイオリニストの葉加瀬太郎氏を選任しているほか、最近では一乗谷朝倉氏遺跡のカレンダーを作成しており、これは文部科学大臣賞を受賞している。葉加瀬太郎氏には、将来的に一乗谷朝倉氏遺跡をテーマにした曲作りをしていただければと考えているとのことであった。

いずれにしても、絶えず新鮮な情報を発信するとともにそのための仕掛けづくりが大切であること、そして何よりもおもてなしの充実を含め観光地そのもののブラッシュアップが重要であるとのまとめであった。



福井市役所前にて



観光施策の概要について説明を受ける様子



## 6 所感及び本市への政策提言等について

### (1) 富山市～コンパクトなまちづくりについて

OECD（経済協力開発機構）が取りまとめた『コンパクトシティ政策報告書』の中で世界先進 5 都市の一つに選ばれているのも頷ける富山市の取組みであるが、やはり北陸新幹線整備事業によるところが大きい。駅周辺では、駅による市街地の分断という問題を抱えるところが多く、周辺地域の整備には鉄道の高架化ということが最も重要な要素であり、富山駅周辺については、新幹線整備事業と一体的に富山駅付近連続立体交差事業及び富山駅周辺地区土地区画整理事業に取り組まれている。JR、国、富山県と富山市の連携の元、集中的な投資が行われている点など、県庁所在地ならではの事業とも思われた。平成 26 年度末までに新幹線の開業を迎え、平成 29 年度までには関連する駅周辺整備事業が完了する見込みであるが、駅周辺を核とする中心市街地の活性化は中々有望であると思われた。

一方、郊外へ住宅が広がっていったことから過度な自動車依存と公共交通の衰退、さらには、住宅の拡散により低密度な市街地が形成されたため、中心市街地が衰退するとともにごみ収集や水道・下水道の整備・除雪等都市管理コストが上昇するということに加え、市民の約 3 割（女性や高齢者）が車を自由に使えないため、極めて生活しづらい街となっているという様々な問題を抱えている。これらの諸問題を解決するために考えられたのがコンパクトなまちづくりであり、その内容は、まず、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市機能を集積させ、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを行おうとするものである。これらの公共交通の便利な地域の沿線人口の割合を平成 24 年の約 31%から平成 37 年には約 4 割にすることをコンパクトなまちづくりの目標としているが、徐々にではあるが成果が目に見えてきているようである。

石巻市においても、富山市のコンパクトなまちづくりへの取組みについては大いに参考とすべき点があると思われた。

## (2) 福井市～観光施策の概要について

福井市は、一乗谷朝倉氏遺跡がテレビ CM のロケ地に選ばれたことから一躍マスコミの脚光を浴びることとなり、この CM 効果により、福井市への観光客入込数は、平成 20 年の 44 万人から平成 23 年には 93 万人へと飛躍的に伸びたが、この点について、その経済効果の程について質問したところ、これといったお土産がなく、最終目的地を金沢市とする通過型の観光地でもあることから、さしたる経済効果が認められていないと回答があった。

石巻市についても同様の問題点を抱えているものと考えられ、たとえ、一時の宣伝等で観光客を大量に呼び寄せることができても、しっかりとした受け皿（「見る」「食べる」「遊ぶ」「泊まる」「買う」の五大要素）がなければほとんど経済効果を生まないということを示唆するものであり、本市の今後の観光戦略を考えるうえで、しっかりとした対応が望まれる部分と思われた。

## 7 調査経費

明心会 300,380円

## 8 添付書類

別添のとおり